

令和7年12月26日発行

ISSN 0918-9173

福岡県保健環境研究所年報

第52号

令和6年度

*Annual Report of the Fukuoka Institute
of Health and Environmental Sciences
No.52 2024*



福岡県保健環境研究所

はじめに

本年 11 月 5 日に、令和 9 年度供用開始予定の福岡県ワンヘルスセンター起工式が執り行われました。当研究所は、このセンターの中核施設として移転し、「人」「動物」「環境」の分野横断的かつ先進的なワンヘルス研究に取り組み、ワンヘルスの推進に貢献することが期待されています。しかしながら、いかに立派な研究所であっても、「研究は人」であり、研究の成否は人にも左右されます。研究職員一人ひとりが、ワンヘルスの推進という目標に向け、より良い研究所を築き、研究に邁進するという強い熱意を持ち、その能力を最大限に発揮できるようにしていかなければなりません。このための当研究所の取組についてご紹介します。

まず一つ目として、職員間でワンヘルス研究に対する見解に相違がみられたことから、昨年末に当研究所が考える「ワンヘルスとは」「ワンヘルス研究とは」について、職員間で議論し、当研究所のウェブサイトに掲載いたしました。二つ目は移転に伴う課題の対応です。移転に向けては、「研究環境の充実」「円滑な研究所移転」等の観点から課題を洗い出し、24 課題からなる課題整理表を作成しました。作成した課題毎にチームを作り、全職員が何れかのチームにメンバーとして参加し、検討事項を挙げ、それに対処する作業工程表を作成して、解決に向けた協議を進め、全職員で進捗状況を共有しています。三つ目として、人材育成の強化や研究環境の整備を計画的に行っています。具体的には、博士号取得支援、リスキリングや文献検索システムの導入、病原体情報・環境測定データなどを一元管理する「ワンヘルス統合データベース」の構築などにより、職員一人ひとりがその能力を最大限に発揮できるよう、研究活動を積極的に支援しています。

このような取組に加え、令和 6 年度における当研究所の各分野における主な取組をいくつかご紹介いたします。

保健科学分野では、個人情報を除く臨床検体情報のクラウド上での共有を可能にするウイルスバンク事業を開始し、九州 8 か所の地方衛生研究所がこれに参画しました。将来的には、新薬開発や新たな検査方法の開発を目指し、地方衛生研究所や大学間の検体提供体制の構築を図っています。このほか、愛玩動物の薬剤耐性菌保有状況や、水環境における薬剤耐性菌と抗生物質等の化学物質の汚染状況の把握に取り組んでまいりました。

環境科学分野では、AI を活用した「大気汚染予測システム (Fcast)」を開発しました。このシステムにより、光化学オキシダントや PM2.5 などの大気汚染状況が 3 日先まで予測可能となり、令和 7 年 1 月から、県内 4 地域別に「大気汚染予報」として毎日ウェブサイトで発信していますので、野外活動などの計画にぜひご活用ください。このほか、国立環境研究所や他の地方環境研究所との共同研究を通じて、大気中の紫外線吸収剤や処分場浸出水中の残留性有機汚染物質 (POPs) の分析法開発などに取り組んでまいりました。

今後も、分野横断的かつ先進的なワンヘルス研究に、より一層取り組んでいくためには、これまで以上に多分野の専門家や研究機関との連携・情報共有が不可欠です。引き続き、皆様のご理

解とご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和7年12月

福岡県保健環境研究所長 白石 博昭